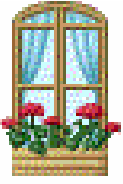


島根の地域医療

第14号 島根県健康福祉部医療対策課 05 September 01
e-mail: iryou@pref.shimane.lg.jp
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



事務局からこんにちは！

◆研修医師のリレーも、今回で4回目になりました。引き続き島根での医療に携わっていただくことを切にお願いいたします。

◆また、今回号では、この夏のさまざまな行事をご紹介します。

地域医療最前線その18

=診療所勤務となって=

私は益田市美都町にこの4月開所となった診療所に勤務させていただいています。美都町は合併して市にはなったものの、自然豊かな田舎で、いらっしゃる患者さんもかなり御高齢の方が大半です。今ではいらっしゃる患者さんも少しずつ増え、徐々に軌道に乗り始めました。診療所勤務はまだまだ新米の私ですが、この4か月の診療所勤務で感じたことを書いてみたいと思います。



当たり前ではありますが、まず診療所には何でもくるということ。緊急性のある重症症例はほとんどきませんが、common disease、整形的な鎮痛処置などを中心に、小外科、皮膚・耳鼻科系のちょっとした疾患など様々です。また開所して間もないせいもありますが、患者さんの話を比較的じっくり聞くゆとりがあること、他科にまたがった疾患を診るため患者さんの全体像がより明瞭であることなど、診療所ならではの利点を感じます。現在はまだ定期往診は行っていませんが、小さい診療所であるため融通がきき、不定期の往診には行っています。

さらに、他の医療・福祉スタッフと

の連携の重要性を強く感じました。独居の高齢者や認知症の方の生活状況など相談していますが、外来診療ではカバーできない問題に関してケアマネージャさん、民生委員さん、役場の皆さん方とは今後もより密に連携をとっていく必要があります。



美都診療所

最後にもう一ついうと、診療をして毎日楽しいということです。新米所長ですが頼りになる地元出身のスタッフに支えられていることは大変強みです。これからも内科以外の広い範囲について勉強し、より充実した地域医療を行っていきたいと思っています。



【美都診療所長 安藤】

◇ 島根県地域医療支援会議

二平成 18 年度医師確保要望数 94 人二

県内の中山間地、離島等の医師確保に関する協力・支援を協議する「島根県地域医療支援会議及び医師確保部会」を 7/14(木)に松江市内のホテルにおいて開催しました。



島根県地域医療支援会議

この会議では、過疎市町村にある公立病院・診療所等から平成18年度の医師確保要望が過去最多の94人ありました。本年度、医師確保部会が調整して派遣している医師は41人で、結果53人の医師不足の現状です。

なお、要望内容は次のとおりです。

■ 要望病院・診療所数: 23医療機関

■ 圏域別要望数: 松江4人, 雲南2人, 出雲1人, 大田22人, 益田20人, 隠岐25人

■ 圏域別不足数: 松江3人, 雲南17人, 出雲1人, 大田14人, 益田16人, 隠岐2人

■ 科目別不足数: 内科31人, 精神神経科2人, 外科5人, 産婦人科3人, 眼科3人, 皮膚科3人, 麻酔科3人, その他3人

以上のように島根県内の医師不足は益々深刻な状況が続いています。この会議には各圏域代表の市町村長、保健所長、拠点病院長など医療関係者の方々が集まり地域医療に対するたくさんの意見・要望がありました。



【医療対策課 坂本】

県のドクターバンクから

● 求人・求職取扱状況

(平成17年8月31日現在)

<求人> 27件

- 邑智郡(病院) / 整形外科、精神科
- 浜田市(病院) / 内科
- 雲南市(病院) / 内科
- 出雲市(診療所) / 胃腸科、肛門科
- 邑智郡(病院) / 内科、整形外科、在宅医療
- 鹿足郡(病院) / 内科、外科
- 仁多郡(診療所) / 内科
- 出雲市(診療所) / 在宅医療
- 那賀郡(診療所) / 内科
- 鹿足郡(病院) / 放射線科、内科、麻酔科
- 益田市(病院) / 内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
- 松江市(病院) / 内科、麻酔科
- 浜田市(病院) / 内科、放射線科
- 江津市(病院) / 精神科
- 仁多郡(病院) / 眼科、内科
- 松江市(その他) / 不問
- 松江市(病院) / 内科、リハビリテーション
- 雲南市(病院) / 麻酔科、精神科
- 出雲市(病院) / 内科
- 松江市(その他) / 内科
- 浜田市(その他) / 内科
- 鹿足郡(病院) / 整形外科、内科、リハビリテーション
- 松江市(病院) / 内科、整形外科
- 邑智郡(病院) / 内科、整形外科、産婦人科、放射線科
- 松江市(その他) / 不問
- 雲南市(病院) / 麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科
- 大田市(病院) / 精神科、内科

<求職> 0件

● 申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
[電話番号] 10852-21-8813 (専用電話)
[ホームページアドレス]
<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm> 【担当: 吉岡・塩田】

研修医のページ その4

＝2年目の研修医師から＝

昨年からは益田赤十字病院で研修を行っております。この病院の研修の特徴は、必修科目だけでなく、ほぼ全ての科において研修するという事です。1つの科を回る期間が短いという短所もありますが、多くの科を回るにより、プライマリーケアを学ぶ上では非常に良いと思います。

救急外来では重症から軽症まで様々な疾患が経験でき、非常に勉強になります。1年目は指導医とともに診療をしましたが、2年目からは1人で診療を任される様になりました。

この病院では各科の垣根がなく、コンサルテーションしやすいです。また、ほぼ全員の先生と顔見知りなので、いろいろなことが相談しやすいです。自分が興味をもって行動すれば、どの先生も指導をしてくださり、大変勉強になります。

これまでの研修を振りかえると、非常に充実していたと思いますし、今後も充実した研修をしようと思いません。



【益田赤十字病院 松永】

◇「シニア(後期)研修ガイダンス」報告

8月6日(土)、シニア(後期)研修ガイダンスを開催しました。

このガイダンスは、今年度からスタートした「研修医等定着特別対策事業」の一環であり、当日は主に県内の初期臨床研修医約20名と7つの研修病院の参加がありました。



ガイダンスでは、まず研修病院の研修担当者から研修プログラムについてプレゼンテーションがあり、その

後、病院ごとのブース分かれて個別面談を行いました。特に個別面談で研修医の皆さんは、将来自分のめざす専門診療科のトレーニング内容を熱心に質問し各ブースを回っておられました。

また、当日、参加者を対象に後期研修に係るアンケートを行いました。研修病院を選ぶ上で重視する項目としては、「研修プログラムの充実」と「指導医の充実が」上位に上がっていました。その他、開催時期について、もう少し早い方が良いという声がありましたので、それらの意見を参考にガイダンスの参加者が増え、初期臨床研修終了後も引き続き島根県で研修していただけるよう、次回のガイダンスを企画したいと考えています。



【医療対策課 古瀬】



中山間地医療守る

「あさひ診療所」開所式

8月1日に旭町丸原にオープンする町国民健康保険「あさひ診療所」の開所式が17日あり、関係者が、信頼され安心される医療サービス体制づくりを誓った。

10月に合併する浜田那賀地区では金城、弥栄、大麻(浜田市)に次ぎ4カ所目の国保診療所。合併後、移転新築する浜田医療センターなどと連携して中山間地域の一次医療を守る。

同診療所は浜田自動車道の旭インター出口に隣接。敷地2600平方メートル、鉄骨平屋の床面積267平方メートルで、診察室と処置室のほか、内視鏡救急処置室、理学療法室、談話室などを備える。建物と備品、医師住宅を含めた総事業費は約1億9300万円。

近くの旭センターであった開所式で、岩谷義夫町長が「慢性的な医師不足で将来、無医町になることが懸念される中、はじめて直営診療所が実現した」と喜びを語り、診療所でのテープカット後、広島県内の病院からUターンした酒井龍司診療所長(37)が「町民のための保健医療活動を展開したい」と決意を語った。

【山陰中央新報 05.7.18 より抜粋】

◇「第1回、第2回地域医療セミナー」報告

島根県は、医師を「呼ぶ」「助ける」「育てる」という3本柱の事業を掲げて医師確保対策を進めていますが、今年度から、「育てる」事業の一環である医学生教育をさらに力を入れて実施しています。

地域医療セミナーは、医学生に、島根の地域医療に関心を持ち理解を深めてもらうために、今年度6回予定しており、第1回、2回のセミナーを8月に実施しましたので報告します。

■ 第1回セミナー

講義「地域医療入門」

8月6日、出雲市民会館で、「地域医療入門」と題し、県医療対策課の木村副医療専門監が島根の地域医療の現状、対策等について講演しました。県内外の医学生13名が参加し、地域医療の基礎について学びました。

■ 第2回セミナー

「夏季地域医療実習」

これは、県内の中山間地、離島の医療機関や福祉施設等での実習を体験してもらうもので、平成14年度から実施しています。年々多くの学生さんに参加いただいております、今年も35名の参加がありました。



金城診療所での実習の様子

実際の現場に触れ、また熱心な先生方の指導を受けた学生は、「地域医療に興味を持った」、「住民に信頼されている先生はすごいと思った」など、いろいろな感想を持たれたようです。このあと、実習後学生から提出されたレポートを紹介します。今回の実習を通して、1人でも多くの学生さんに島根の地域医療に興味を持っていただき、将来の進路を考えるうえでいい機会になってくれ

れば、と願っています。最後になりましたが、ご協力いただきました医療機関、福祉施設等の先生方、スタッフの皆様へ、心からお礼申し上げます。



【医療対策課 石橋】

- ◇実施地区:雲南、県央、浜田、益田、隠岐島後、隠岐島前、都万診療所、弥栄診療所、来待診療所
- ◇参加者:自治医科大学学生 10 名、島根大学医学部生 19 名、県外医学部生 6 名
- ◇実施期間:8 月中の 3~4 日間(診療所研修は 1 日)

■実習レポート(その1)

【島根大学医学部5年 上元洵子、廣瀬 泉】

実習地区:益田地区(8月17日~19日)

日程

- 1日目...午前:益田保健所、午後:日原共存病院、津和野共存病院
 - 2日目...午前:益田市医師会病院、午後:医院の往診と産業医会議出席、美濃地出張所の巡回診療、意見交換会
 - 3日目...益田赤十字病院
- 益田は県内でも医師が少ない医療圏ですが、その中でどのように病院や診療所が連携し医療を行っているかを学びました。益田の医療課題としては機能分担、医師確保、僻地の医療があり、また様々な健康課題がありますが、これをクリアするために往診、巡回診療など様々な取り組みが行われていました。

3日間を通して特に印象的だったのは益田圏域では医療機関での連携がうまくいっていると感じたことです。病院同士で急性期は日赤と津和野、慢性期は医師会病院、日原、六日市という風にはっきりと機能分担がなされており、その様子はとても目新しいものを感じましたし、医師会自ら作った地域医療支援病院という形態もはじめて目にしました。他の医療圏に比べ、医師会の果たす役割が大きく、益田全体として物事をとらえておられる姿勢に感動しました。医師会病院から美濃に向かっ

たのですが、無医地区である美濃地の出張所は3人の医師が担当して週に1回午後に診療をするということでした。車で30分はかかる山口県との県境の古くからある小さな診療所で5人ほど患者さんが来られ、私たちも臥位と座位での血圧を実際測り、薬での血圧のコントロールの具合を一緒に確認させていただきました。患者さんの話をじっくり聞き医師会病院から用意して持ってきた薬を処方したり注射したりもでき、患者さんは安心されている様子でしたが、診療は週にたった1回、しかも数時間しかいないということで常勤医がいる診療所が近くにある人とは不安の大きさがずっと違うだろうという声も聞きました。

また、今回は産業医会議にも参加させていただき、益田では自殺率が県内で一番高いのですが、保健所・開業医・病院・事業所が一体となって、その対策としてのメンタルヘルスや自殺などをテーマに話し合い、健康課題に一体となって取り組まれていることを知りました。地域医療という診療や医療課題の解決というイメージが強かったので地域医療において、医師も臨床医としてだけでなく、公衆衛生・産業医など多くの役割を果たしていることに驚きました。

私たちは職業上では医療という切り口で地域と関わることになるのですが、その地域で何が必要かを的確に捉え、実際に行動したり、日々の診療で患者さんの健康管理をしたりと、その地域の方々の生活・人生に影響していくという地域医療の重みを改めて感じました。医療には奉仕の精神が必要だとおっしゃった先生がおられましたが、その言葉どおり、自分の生活のためだけでは地域医療はやっていけないと思いました。また、マンパワーが不足している中で、工夫の重要性を痛感する一方、なぜ医師が不足しているのかという根本的な問題に対する働きかけが必要になってきていると感じました。しかし、『地域医療とはなにか』という意識のもと、以上のようなことを実際肌で

触れて考えることができ、これからの医師としての進路を考えるだけでなく、医療そのものを考える機会となり、大変有意義な3日間であったと思います。

■実習レポート(その2)

【自治医科大学1年 岡田絵美】

実習機関:来待診療所(8月19日)

①実習施設とその地域の概要

来待診療所は「健康の里」の施設のうちの一つです。

「健康の里」とは地元の要望により、町民の健康づくりの拠点として建設された施設で、来待公民館、来待診療所、健康センター、農村公園等からなります。子供からお年寄りまで、自分に合った病気の予防、健康の増進に努めることのできるとても良い施設だと思っています。

②実習内容

- ・朝礼:自己紹介をして朝礼に参加。昨日どんな患者さんが何人来られたかなどを山田先生が報告される。
- ・診療所の説明:胃カメラ、肝機能検査、尿検査、レントゲン、超音波検査など、思っていた以上に機器がそろっていて驚いた。
- ・超音波検査見学:まだ私には写真を見てもよく分からなかったが、肝臓の形を把握できたことがうれしかった。
- ・訪問介護同行:高齢者のお宅に伺った。ベッドが家の中心にあり、患者さんが家庭の中心にいるような、理想的な環境だと思った。オムツ替えや口の中の掃除、胃のチューブのガーゼの交換などを見学した。
- ・外来診察見学:多くの患者さんが来られ、先生は休む暇もなく仕事をしておられた。先生はカルテを書きながらも患者さんの顔を見ながら話を聞いておられた。遠くの病院に通うのが大変だから、近くにある来待診療所に変えたいと言われている人が多かったように思う。

③考察

大病院と違って診療所はスタッフの人数がすごく少なかったですが、そのぶん山田先生がよく動いておられた気がします。また様々な医療機器が揃っていることに驚きました。

診療所では、医師と患者さんの間に大病院以上に親しい関係が出来上がっているように感じました。医師に病気を診てもらおうというより、話を聞いてもらいたいという患者さんが多かったように思います。病気を治すだけでなく、患者さんの話し相手になることも大切だと実感しました。また、患者さんが病院に通いやすいように、病院間の連携も大切だと分かりました。

初めて訪問看護を見学しましたが、家族だけで介護をするのには限界があると感じました。患者さんが自宅で気持ちよく過ごすためには、病院とヘルパーさんと患者さんの家族の間でうまく連携すること、また家族教育が大切だとヘルパーさんから学びました。

今回の研修を通じてますます地域医療に対する興味がでてきました。自治医大で外来の研修をした時は、医師はパソコンにばかり目を向けていて、こんな状態でよいのだろうかと思っていました。しかし来待診療所で、先生が患者さんの目を見て話を聞いておられる姿や、患者さんと医師のつながり、また「健康の里」と地域のつながりを知り、私もこういう場で働きたいと強く思いました。

◇風を吹かれて13 ～地域医療研修に同行して～

このたび8/17(水)～8/19(金)に益田地区で行われた医学生の地域医療研修に同行しました。私はこの地区は代診も含めて勤務した経験がなく、是非早く自分の目で医療体制を見たいと思っていました。また医学生が、地域医療現場を見て、地域医療とは何かということを考える手伝いがしたいと考えておりました。

初日に日原共存病院を見学させていただいた際に、いみじくも「地域医療とは」というお話があり、医学生たちが地域医療を考えるきっかけを作ってくださいました。その後、実際に急性期の病棟だけではなく、その他ほとんど全ての慢性期の病棟、福祉施設などの見学の機会も準備されていました。また、往診に同行し

たり、巡回診療では診察もさせていただき、実際に患者さんに触れることもできました。

2日目には、益田医師会病院を見させていただき、医師会病院内のことにとどまらず、益田圏域の病院間での医療連携についての講義を受けることができました。初日に保健所でも同様の話を聞かせていただいたこともあり、非常によく理解できたようでした。

昼食を食べながら、4人の医学生と地域医療って何だろうか、またそれを実践するにはどんな知識、技術がいるのだろうかということをお話しました。地域医療とは、おぼろげながらも「地域に根ざした、地域住民のための、保健・福祉も含んだ包括的な医療」というような結論が出ました。参加者全員が地域医療の担い手になるわけではないと思いますが、それぞれにとって実り多い研修でした。

今回の研修におきまして、たくさんの皆様方に御世話になり、大変ありがとうございました。

【医療対策課 木村】



【今後の予定】

- ◆「県政広報テレビ番組」
 - ・9月3日(土)11:30～11:45
 - ・シマネスクNOW(山陰放送)
 - ・「探しています 島根で働くお医者さん」
- ◆「第5回中国ブロック地域医療研究会・平成17年度第3回島根県地域医療セミナー」
 - ・9月10日(土)9:00～17:00
 - ・県立中央病院
- ◆「臨床研修プログラム発展講習会」
 - ・9月17日(土)14:00～ホテル穴道湖
 - ・講演:「沖縄県立中部病院における卒後臨床研修の特色」沖縄県立中部病院副院長 宮城良充 先生
- ◆「研修医意見交換会」
 - ・10月1日(土)15:00～19:30
 - ・ホテルエイト、パルメイト出雲
- ◆「島根県指導医養成講習会」
 - [第1回]・10月22日(土)～23日(日)
 - ・島根大学医学部(出雲市)
 - ・ディレクター:自治医科大学 三瀬順一 先生

[第2回]・2月4日(土)～5日(日)

・島根県民会館(松江市)

・ディレクター:名古屋大学 伴信太郎 先生

【赤ひげバンク登録数】(H17.9.1)

●医師:178人

●歯科医師:6人

●医学生:139人

●その他:23人

○「赤ひげバンク」を開設した平成14年度からの島根での勤務実績数は、医師14人、歯科医師2人、その他2人の計18人となっています。

None Blue Rose



▼全国には3,000カ所を超える温泉地があり多くの方が「温泉」を利用されていますが、島根県には約60カ所もの温泉が県内各地にあることをご存じですか。

▽「温泉」とは昭和23年の温泉法で「地中からゆう出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガスで、別表に掲げる温度(温泉源から採取されたときの温度25℃以上)、又は物質を有するもの」と定められています。▽また、温泉の利用には疲労を回復させる「休養」、健康を保持し病気を予防する「保養」、病気の治療をする「療養」に分類することができ、これを“温泉の三養”と呼んでいます。

▼さて、奈良時代の「出雲国風土記」には3カ所の温泉の記述が見られます。今の「玉造温泉(松江市玉湯町)」「海潮温泉(雲南市大東町)」「湯村温泉(雲南市吉田町)」ですが古い歴史を持っているようですね。▽県内では新たな温泉を発掘中の所もあり、いつでもどこでも気楽に温泉浴を楽しめます。▼島根県内の温泉制覇を目指してみるのもひとつの楽しみ方です。

▼島根の温泉で身も心もリフレッシュ!



Itaru

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことBlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちの地域医療への熱いメッセージです。



しまね地域医療支援センターの連絡先
(島根県庁医療対策課)
赤ひげバンク登録状況調査の返信をお願いします。
〒690-8501 松江市殿町1番地
E-mail: iryou@pref.shimane.lg.jp
TEL: 0852-22-5251
FAX: 0852-22-6040
ホームページ[島根の医療]:
<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>

